

# 笠間地区



## 地区の概要

笠間地区は、大船駅を中心とした交通・買物の利便性が高い地区で、笠間一〜五丁目、笠間町から構成される地域です。

江戸時代初期に笠間村が誕生し、明治以降、日本の近代化と共に鉄道等の交通機関の発達に併せ、工場等の建設が進みました。近年、交通の利便性等から再開発などによる中高層マンションの建設が進み、約1平方Km余の小さな笠間に約7,200世帯、約16,200人の方々に住む街として発展を続けています。昔からの住宅地では高齢化が進んでいますが、大規模マンションには子育て世帯の居住が多く、区内では高齢化率の低い地域です。

## 地区の特徴から考えること

- 昔からの住宅地と新しいマンションが混在している中で、つながりを中心とした取組が大切です。
- 大船駅前開発等、今後も転入者が増えることが予測されます。地域情報の提供や生活支援体制づくりが大切です。
- 大船駅周辺の再開発により、今後も子育て世帯の転入が予測されます。地域のつながりのきっかけづくりが求められています。
- 昔からの地域では、高齢化が進んでいます。現在も健康づくりの取組は盛んですが、今後も、介護予防等自分に合った健康づくりの機会を地域の中で提供します。
- 各町内会自治会により、活動体制に特徴があります。災害時等いざというときに備え、日頃からのネットワークが大切です。
- 働き世帯の多い地区です。住民総参加の活動を目指して、得意とすることを活かした地域参加のきっかけづくりが重要です。

**こんなまちにしたい**

- 日頃からの支えあいがあり、災害時も日常も安心して暮らせるまち。
- 地域のすべての人が気軽に集まれる場が身近にあり参加の輪が広がっているまち。
- 子育て世代への理解、障害や認知症への理解が広がり、あらゆる世代の交流があるまち。
- 古くからのつながりを活かしながら、新しい地域情報の提供や生活支援体制づくりがすすむまち。

## こんな地域です！

昔ながらの伝統行事と新たな活動も始まっています。



鯉のぼり



かさま つながるマップ



敬老会



サロンの様子



防災訓練の様子



どんど焼

## 策定の経過

### 取組主体：かさま・つながるプラン推進会議

#### 【笠間地区社会福祉協議会】

#### 【町内会自治会】

- 笠間山王町内会、笠間通り町町内会、笠間上町町内会、笠間宮上町内会、松ヶ丘町内会
- 笠間中央町内会、笠間余曾根町内会、笠間町内会、ライプタウン大船自治会、笠間福住町内会
- 笠間西南町内会、笠間田立町内会、大船パークタウン自治会、第2大船パークタウン自治会、第3大船パークタウン自治会、ガーデンアソシエ自治会、

#### 【各種団体】 民生委員児童委員協議会、青少年指導員協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、

- 保健活動推進員会、消費生活推進員の会、交通安全協会笠間分会、交通安全母の会、
- 栄消防団第三分団第1班、家庭防災員会、環境事業推進員連絡協議会、子供会育成指導者連絡協議会、更生保護女性会、シニアクラブ連合会

#### 【福祉活動団体】 ニコニコさろん、ふれあい昼食会、配食サービスの会みつ葉

### 開催の状況

・**推進会議**: 全町内会自治会、地区社協、各種団体等が参加し、計画の推進と第3期計画策定を進めました。平成27年度は7回開催しました。

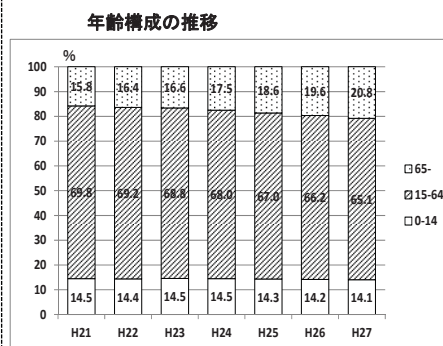
・**企画委員会**: 第3期かさまつながるプラン策定のための話し合、策定作業を進めました。平成27年度は6回開催しました。

・笠間地区で活動している団体(町内会自治会、地区社協、各種団体等)の活動者、参加者を対象にアンケートによる意見募集をしました。(回収数: 845)

・「顔の見える、つながるまち」まちづくり意見交換会を開催しました (11月8日: 60人参加)

・笠間地区内で活動している町内会自治会、地区社協、各種団体を対象に、現在取り組んでいる活動について活動団体アンケートを実施しました。

### 笠間地区の統計データ



### 将来人口推計(2010-2025年)

笠間地区 年齢区分別人口構成の比較

年齢区分	2010年(平成22年)		2025年(平成37年)	
	人数	割合	人数	割合
15歳未満	2,358	14.4	2,192	11.8
15歳~64歳	11,376	69.3	11,535	62.2
65歳以上	2,693	16.4	4,815	26.0
65歳~74歳	1,672	10.2	1,883	10.2
75歳以上	1,021	6.2	2,932	15.8
合計	16,427		18,542	

(横浜市ポータルサイト町丁別インデックス  
栄区登録者数世帯と男女別人口各年3月末現在)より作成

- 平成21年から25年を見ると総人口はほぼ変わらず高齢者の方の割合が増えています。
- 栄区の中ではまだまだ若い地区ですが、平成37年には高齢化率26.0%となると予測されています。

第3期 かさま・つながるプランの取組

笠間地区の目標

「顔のみえるまち」(平成28年4月1日～33年3月31日)

テーマ	課題	将来像(目標)	取組内容	取組体制	セーフコミュニティ
防災減災の対応	①町内会自治会組織における防災・減災対策の構築 ②要援護者避難システムの構築と訓練の実施	①町内会自治会で助け合いネットワークが出来ていて、災害時でも日常も安心できる状態にある ②町内会自治会独自で年2回防災・減災の訓練を実施している	①町内会自治会を中心に自分の身は自分で守れるよう啓発する。近所で助けあえる、小さな単位(班・組)でのネットワークづくり ②いっとき避難場所を活用した訓練を行う ③要援護者が安全に避難できるよう、介助法等を理解する(認知症や障害の特性)	防災分科会 ※	災害安全 高齢者安全
交流の場	①気軽に多世代が参加できる近場の会場が少ない ②サロン参加者の見守りやSOSがキャッチできる工夫 ③新たな担い手の確保	①全ての住民が身近な場所に気軽に参加できる交流場所があることを知っている ②仲間の輪が広がり、気軽に相談を受けたり、気に掛けたり、見守りが出来ている ③まちの先生や担い手が加わり活動団体・個人同士の相互交流や連携が出来ている	①さまざまな世代が気軽に参加しやすい会場・周知の工夫 ②生活情報(健康・行政・ケアプラザ・地域の行事など)を取り入れた内容の工夫 ③まちの先生や新たな担い手を取り込む	サロン分科会 ※	高齢者安全 スポーツ・余暇安全 防犯
青少年育成	①子どもと大人が顔見知りになる活動の見直しや機会を増やすことが必要 ②子どもたちが自ら参加できる場(企画・運営)の工夫 ③子どもたちの居場所が少ない(預け先・送迎・障害のある子どもなど)	①近所付き合いが深まり隣人同士(青少年・児童を含み)快い挨拶を交わし合える ②子どもたちが自ら企画・運営・参加の行事(ディキャンプなど)の開催 ③高齢者(シニアクラブなど)と交流が出来る居場所がある	①挨拶が気軽に行える関係性の構築(登下校時の見守りと挨拶) ②ディキャンプの子ども対象の事業の継続開催と拡充 ③中学生ボランティアの場の提供(子どもと大人の懇談会の開催) ④子どもの居場所づくりと多世代交流事業の検討	青少年分科会 ※	こども安全 交通安全 スポーツ・余暇安全
日頃の支えあい	①日常生活のちょっとした困り事、認知症などへの対応を求める声が多い ②情報が行き届かないことによって、孤立化など生活に大きな影響が出ている	①困ったときに地域の人が欲しい情報が得られ必要な場所に相談が出来ている ②見守り(認知症・子どもなど)体制が出来ている ③情報が行き届き、交流の場(サロン・子どもの居場所・笠間地域ケアプラザ)が活用されている ④転入者等へ必要な地域情報が伝えられている	①ちょっとした困り事に対応できる仕組みづくり ②見守り(認知症・子どもなど)のネットワークづくり ③広報紙・回覧は手渡しで行い、日頃から声を掛けあい必要な人(転入者・若者など)に地域情報を届ける	支えあい分科会 ※	高齢者安全 児童虐待予防 自殺予防

※印の欄は、記載内容を作成中